

項目	内容
名称	セイヨウトチノキ (マロニエ) [英]Horse chestnut [学名]Aesculus hippocastanum L.
概要	セイヨウトチノキは、別名マロニエとして知られる植物である。利用部位は樹皮、葉、花、クリに似た果実であるが、日本では果実は原則として医薬品の扱いである。
法規・制度	■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none">・種子：「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料)」に該当する。・樹皮、葉、花、芽：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none">・サポニン[アエスシンaescin (escin)：樹皮には含まない]、フラボノイド、クマリン、クマリン配糖体[エスクリンesculin (aesculin)]、タンニンを含む。・別名マロニエ。25 mほどの高さの落葉樹。バルカン半島からヒマラヤまでの広い地域で見られる。16世紀にヨーロッパに紹介された。春の終わりに白い花が直立した穂状花序につき、秋には球状の線褐色の棘状の果実の中に1~3 cmの光沢のある赤茶の種がある。使用部位は種子、枝の樹皮、葉。
分析法	-

有効性

循環器・呼吸器	RCT ・慢性深部静脈不全による静脈浮腫を伴う患者40名（試験群20名、平均53±9歳、オーストリア）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、セイヨウトチノキの標準抽出物369～412 mg/日を6週間摂取させたところ、浮腫の低減が認められた (PMID:1621440)。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトの生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
で脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
の免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	(20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン (23) 天然食品・薬品・香粧品の事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳 (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について) (58) The Complete German Commission E Monographs (PMID:1621440) Vasa. 1992;21(2):188-92. (PMID:10482846) J Allergy Clin Immunol. 1999 Sep;104(3 Pt 1):681-7. (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS). (PMID:21310579) J Emerg Med. 2012 Dec;43(6):e401-3. (PMID:24252494) J Ethnopharmacol. 2014 Jan 10;151(1):583-90. (PMID:18331390) Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2008 May;102(5):466-75. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (PMID:27141926) Am J Case Rep. 2016 May 4;17:305-8. (PMID:20218935) Xenobiotica. 2010 Apr;40(4):245-54. (PMID:12127912) Life Sci. 2002;71(13):1579-89.